

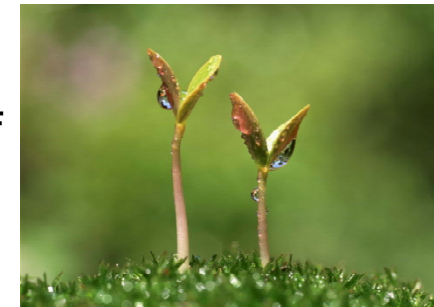
# 人むすびの場

第33回テーマ  
“被災地報告”  
～いま、何が起きているか～

日時	平成23年4月25日(火) 午後7時～9時
会場	スペースU
企画運営	“人むすびの場”づくり企画運営チーム

# 人むすびの場”をともに創りませんか？

- 「むすひ(産霊)」とは、ものを生み出す力のことを表す古語です。場には、不思議な力が宿ります。何かが生まれ行くエネルギーに満ちています。
- 「人むすびの場」は、ご参加の皆さん全員が「場づくり人」として、思いと知恵を分かちあう「対話と創発の場」です。
- 他者との対話を通じて見えてくる自分自身の思いへの気づき、次なるステップへのヒント、自然と生まれるつながりの発展の機会としていただけたらと思っています。
- 私たちの世界は、「人と自然」「人と人」のつながりが薄くなり、様々な問題を抱えています。でも、世の中には人財、知恵もそこかしこにあり、結び合うことで問題解決のパワーも生まれてくるに違いありません。
- 今の自分の一歩が、世の中がよくなることにつながる。そんな互いの思いを分かち合うことから、「和・環」となって、何かが変わることを信じている人々の集まりにしたいと思います。
- 「人むすびの場づくり企画運営チーム」へも是非ご参画ください。
- 新しいアイデア・企画の提供など、もろもろご意見をお待ちします。



# プログラム

- 19:00 ◆オリエンテーション 人むすびの場とは  
“人むすびの場”づくり企画運営チーム 高重 和枝
- 19:05 ◆スピーチ  
「被災地報告  
～いま、何が起きているか」  
  
友廣 裕一(ともひろ ゆういち)さん  
(リソースコーディネーター)
- 19:50 ◆人むすびカフェ  
ファシリテーター 角田知行さん
- 20:55 ◆本日のまとめ  
21:00 終了  
交流会(ピアンタ)



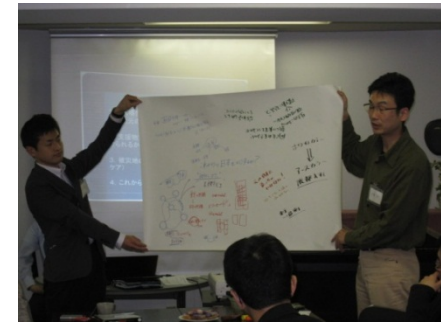
## 「被災地報告」

～今、何が起きているか～

ゲスト 友廣 裕一(ともひろ ゆういち)さん  
(リソースコーディネーター)

- 「ムラアカリに行く」プロジェクトで、北海道から沖縄まで、過疎地や限界集落を回り、自分の「役割」を探す旅をしてきました。180日間、70町村、300人以上との出会いがありました。人の縁をたよりに農林漁業、畜産業のお手伝いをして泊めていただきました。「ムラアカリ」の先に、未来のアカリが広がると考えています。
  - 地震がおきた時は秋田にいましたが、3月17日から宮城県に入って被災地を駆け回ってきました。今回の被災地は広範囲なので、手の届かない地域がたくさんあります。そこで、小さな集落の避難所を中心に、大震災を契機に、被災者とNPOの専門的支援をつないで支える「つなプロ」活動をしています。
  - 現地では、避難所ごとの差がとても大きく、すぐ近くにある避難所同士でも大きな違いがあります。避難所でのマネジメントや行政のスタンス、人でも変わります。一週間ぐらい孤立していたところは、すべて自分たちで暖をとり、賄って、生活していました。子どもたちはいろいろ傷を負ってるが、元気を取り戻しつつあります。キッチンカーがあるといいな、と思いました。
  - 僕たちの役割は、悲しみに寄り添っていくこともありますが、希望をつくっていく役割もあり、支えるカタチ(モデル)をつくっていく必要があります。
- ①海藻の養殖をできないか。  
ロープに種苗を付けておけば、2～3ヶ月で回収できる、義捐金のオーナー制度のようなカタチでビジネス化、海藻を加工して、さらに仕事を広げる、単なる募金や寄付よりも、生きたお金として、先の暮らしに使えるお金になるのが良い
  - ②牡鹿半島には鹿が多いので、鹿の角を活かせないか  
鹿角の加工品、装飾品、日用品など、新たな産業を興す元手になると良い、牡鹿を応援する証として出資者を募る
- 東日本大震災緊急支援プロジェクト「トモノテ」では、ボランティアを受け入れています。ボランティアに対して否定的な意見もあるが、人は必要で、いくらでも仕事があるので、多くの人に来てほしい。受入れ体制のあるところにはどんどん参加してもらい、継続的にやってくれる人がいるとなお嬉しいです。

# 人むすびカフェ



# 人むすびカフェ

「人むすびカフェ」は、皆さんそれぞれの課題意識を大事にしたいと思い、OST(オープン・スペース・テクノロジー)の手法を少し取り入れて、皆さんからテーマを募り、4つのテーマが挙がりました。

## ①グループの対話『働く場をどう作るか？（地元の人とボランティアの共存）』



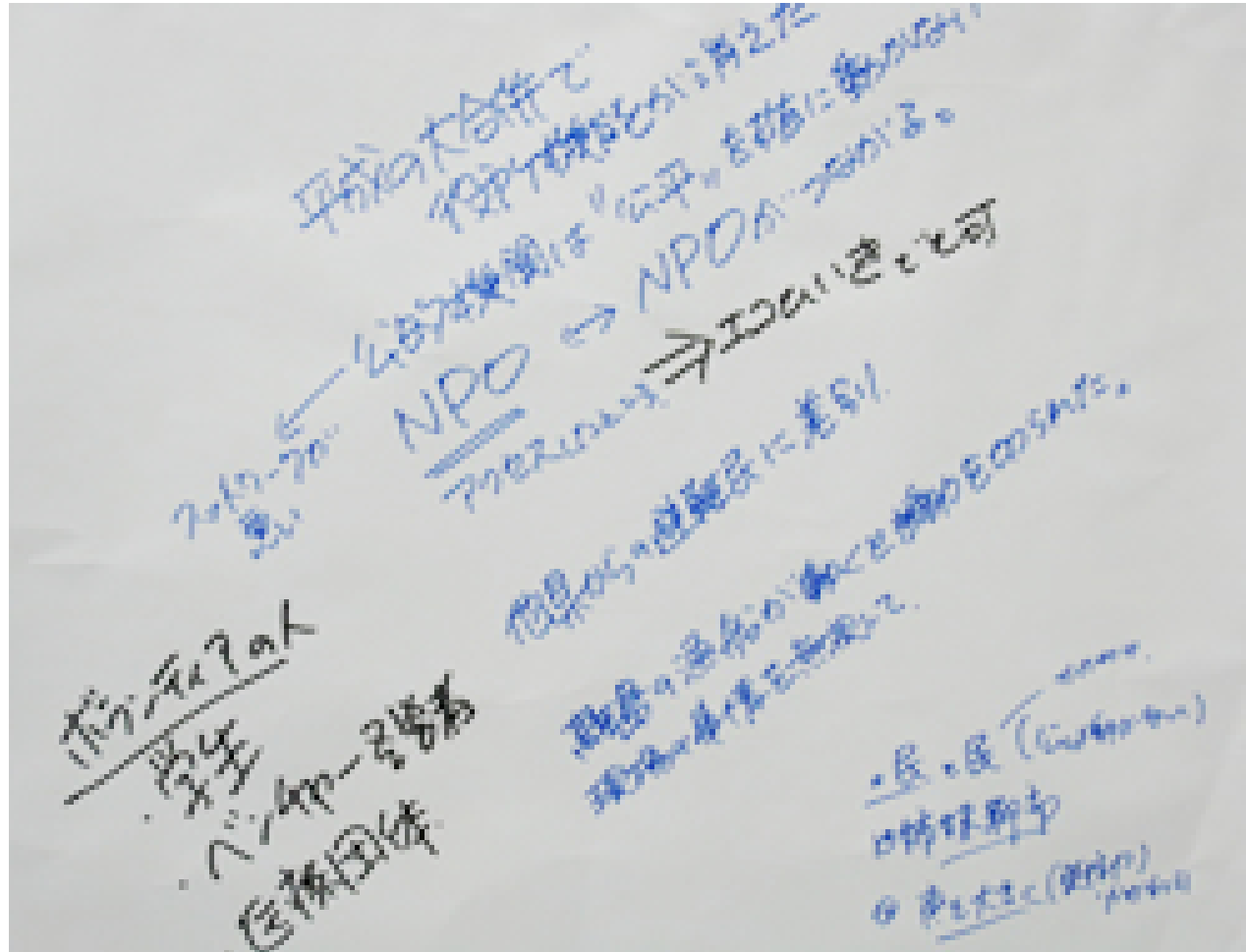
暮らしをつくるこれまでと違う産業を起こしていく。

それには、現地の元気な漁村の女性や若い人たちの想いを大切に、外部の人間が意見を引き出し、場づくりをして、男性中心社会ではなく、現地の人たちが自分たちでモノをつくれる文化、生活を作っていく。

支援はお金だけではなく、人と人の顔の見える「人」中心の支援をしていく。

# 人むすびカフェ ー2

## ②グループの対話 『支援物資をどうやって必要なところに届けるか』



結論としては必要なところに物資は届かない。

「公」を待っていても無理があるので、「民」と「民」のツナガリでがんばるしかない。

姉妹都市で普段から仲良くしておく(都会と地方とか)とか、首長の発信力も大事である。平成の大合併で小さいところの役場機能がなくなったり、市役所は全員に配られるような物資供給はできない現実がある。

# 人むすびカフェ ー3

## ③グループの対話 『被災地の教育をどうするか』



どこから考えたら良いか分からない。  
中学、高校生で受験シーズンの子は格差が生じている。小学生、中学生も学期が始まっていて明らかに遅れている。

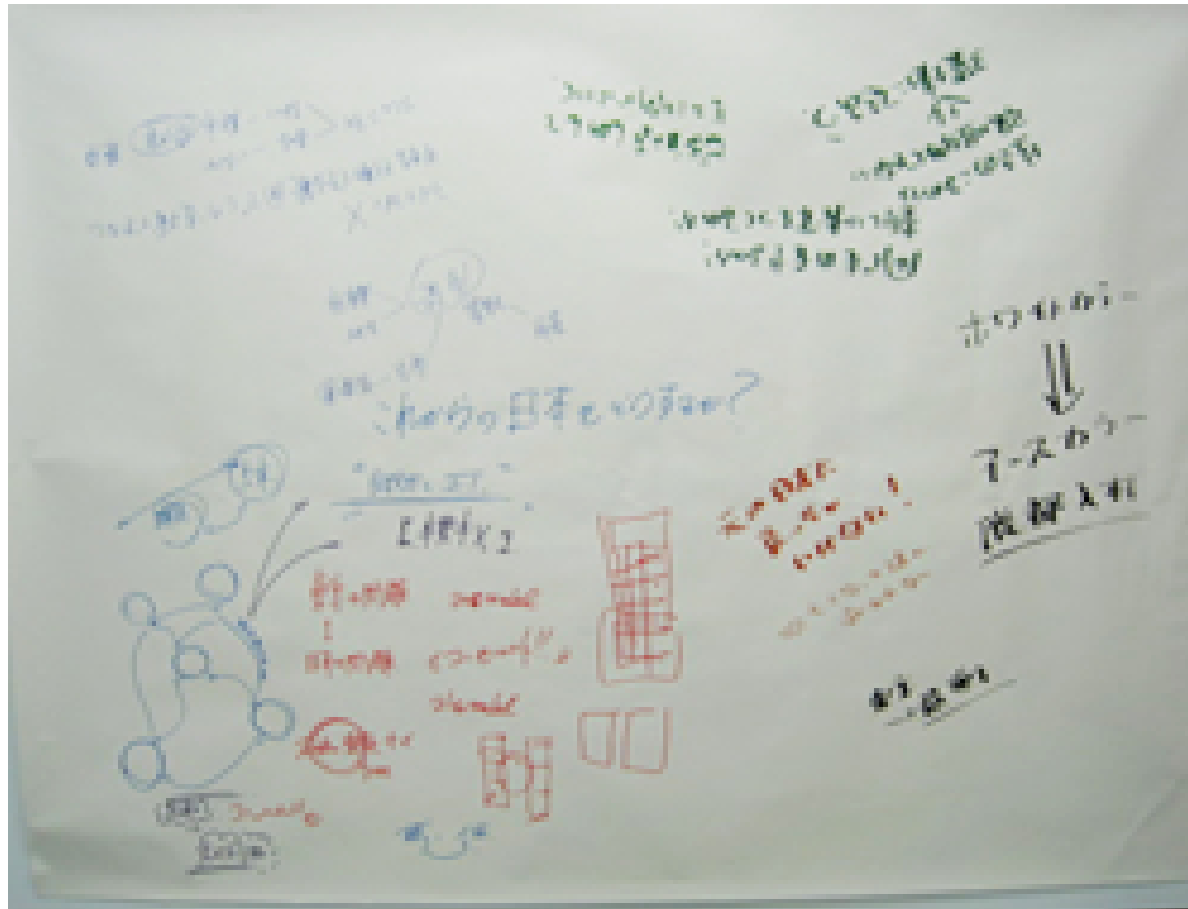
自治体がなくなったところは教育委員会もなくなるので、国が復興省のようなレベルで旗を振らないと解決できない。

現状把握が教育に関してはできてない。学校が地域のコミュニティでもあるが、地域間格差が生まれており、難しい問題だ！



# 人むすびカフェ ー4

## ④グループの対話 『これからの日本をどうするか？』



友廣さんからまとめの言葉。

全体の話、概念的な話、マクロな話は行政が主に取り組めば良いが、我々是一人ひとりが自分で今できることを常に考えて取り組んでいくことが大事。限界集落だから何とかしてあげるのではない。経済が回れば良いという考え方は違うと思う。復興を経済だけの話で終わらせず、1人の人に向き合っ、何が幸せかを考えればできることがある、ミクロに見ればできることが必ずあると思う！

今回の震災は東京・日本全体のあり方が問い直されている。

東京は、過剰に人口が多いから高層化し、コミュニティがなくても成立する都市構造をつくってきた。原発を置けないからフクシマに置いた。

これからは東京を変えるべきだ。危機感をすべての人間が共有して、自分を変え、助け合う人間関係をつくる必要がある。石油に頼る文明からの脱却。

災害に弱い『ホワイトカラー』から『アースカラー』への転換。農業生産への雇用をして脱都入村。この大転換をチャンスに変える！

## 本日の感想①

### \* 今日、どんな気づきがありましたか？

- ・支援の輪の拡がりと皆さんの高いモチベーション
- ・状況把握、その共有が大切
- ・震災復興支援は、義援金や援助物質の寄附にとどまらない。  
今後おこる問題点を想像して先回りすることも大切
- ・グローバル
- ・今後の日本のビジョンについて
- ・震災によって変化しなければならないのは被災地だけでなく、むしろ東京や大都市、エネルギーに依存したライフスタイルそのもの
- ・平成の大合併で役所機能がない市町村は大変
- ・リアルに現地のお話を腹に落とすことができました。
- ・現地の限界 人が好きなのか、日本が好きなのか・・・
- ・頭ではわかっているけど現地に行かないとわからないことがたくさんある。  
でも、先のことでも考えていく事も大事であるし、地域の人はどう思っているのか、地域の主導で再生するビジョンが本当に必要になると思った。
- ・話すことはいろんな気づきをもたらしてくれる。
- ・日本全体がいま問われている！
- ・本当に一人ひとりの変化が必要だと思いました。この震災に対しての危機感、私たち一人ひとりの暮らしと、日本と世界と繋がっている事が意識できるきっかけが続けばいいと思う。
- ・3.11後を世界で考えることの必要性を強く感じています。
- ・当事者意識を持つことの大切さに気づきました。
- ・震災の地で求められている(必要)なのは、コミュニケーション(「ここに何が足りない！」「そうか！」)とマネジメント(モノと物流)であると気づかされました。

## 本日の感想②

\* 一番、印象に残ったこと(キーワード)はどんなことでしたか？

- ・地域の文化までが変わってしまう可能性
- ・教育
- ・ホワイトカラーからアースカラーへ
- ・働く場の創出はピンポイント支援で！
- ・脱都入村
- ・アースカラー
- ・「物資は届けられない！！(無理！！)」上手くいかない現実・・・
- ・公は動かない。民と民、つながりある同志から動くしかない。
- ・コーディネーターが足りない。
- ・皆、それぞれの思いでやっている。
- ・希望をつくっていくことがこれからは大事
- ・自分の想いを大切にすること
- ・「つながりをつくりなおす」友廣くん
- ・本当に現地の状態と自分のうけとる情報は違うという事
- ・新しい形でこれからの日本を作っていく必要性
- ・被災地に物資やお金を単純に渡すのではなく、被災地が自ら収入、雇用を作り出すという考え
- ・避難所でも自治がちゃんとできている場所はよくモノが来ている。

## 本日の感想③

\* その他、よかったこと、残念だったこと、質問など、ご自由に。

- ・具体的に活動されている方々のリアルなお話が伺えて良かった。
- ・意見と現地の実情がマッチしていないように思った。
- ・色々な視点が刺激になりました。
- ・テーマ別に話し合えて良かった。
- ・良かったこと・・・現地の報告、経験談、各界のみなさんの言葉が聴けたこと  
残念だったこと・・・明確な明るい企業の方向性までは見出せなかったこと  
時間が足りず語りつくせなかったこと
- ・すごくこたえる場でした。
- ・疎通したかったです。つながり大事ですネ！
- ・行政がこわれているときに自律的に動ける訓練の必要性を感じた。
- ・3.11という大変な事態を乗り越えていくためと、これまでになく集中した場になったと思います。
- ・対話の場があったことが素晴らしかった。
- ・4つのテーマに分かれて話せてよかったけど、どれも話したいテーマだったのでみんなと話したかったという欲張りな気持ち。
- ・1、2に通じるのですが、「腑に落ちる」感覚及び「考えるべき、すべきこと」に注目することができました。ありがとうございました。
- ・話し合いのテーマが、少し設定してしまいました(汗) 参加していただいた皆様に感謝です！

**皆さん、と一緒に場をつくってくださってありがとうございました。**